

名寄市

平塚 理沙

1. 地名の由来

名寄川が天塩川に注ぐ様子をいったものアイヌ語のナイ・オロ・プト（川の・所の・口の意）にちなみ、天塩川（てしおがわ）から支流の名寄川への入口の意味である。ナイ・オロ・プトがつまってナヨロプト、さらにプトの省略でナヨロになり、漢字で表記し名寄となった。江戸時代後期にナヨロが見え、先住民のアイヌ人はナイプト・ナイプツ・ナヨロプトなどとも呼んでいた。

2. 歴史

2.1 沿革

表 1 名寄市の沿革

1900年	山形県東栄村（旧藤島町、現鶴岡市）から開拓団が集団移住した。
1902年	上名寄、多寄、下多寄の各村が剣淵戸長役場（現在の剣淵町）から分離し、戸長役場を上名寄に設置する
1903年	旭川からの鉄道（現在の宗谷本線）が開通。
1907年	下名寄外一村戸長役場（現在の美深町）を分離する。
1909年	二級町村制が施行され上名寄村が誕生。
1915年	一級町村制施行と同時に名寄町に改称。
1920年	智恵文村が下名寄村（現在の美深町）から分村する。
1924年	下川村（現在の下川町）を分村する。
1954年	智恵文村を合併する。
1956年	市制施行。
2000年	名寄市開拓 100 年記念式典を行う
2005年 2月 28日	風連町（上川郡旧多寄村字風連）との合併調印式挙行
2006年 3月 27日	風連町と合併し（新）名寄市発足

上記の表 1 のような歴史を経てきた市である。6 年前に開拓 100 周年を迎えた、比較的歴史の浅い街であるが、周囲の市や町における中核的な存在として栄えている。そのため、基幹産業としての農業のほかに、サービス業も盛んになってきている傾向にある。

2.2 開基・入植

明治 33 年（1900）、添川の太田豊治さんが同志 34 人とともに移住し、名寄開拓の開基となったことによるもの。一昨年（2000 年）は 100 年記念となった。開拓当時は、巨木や熊笹で覆われた荒地で、幾多の困難を乗り越え、国内最北端の水稻耕作地としての礎を築いた。また、翌年明治 34 年、越中団体長の大谷治郎市は、名寄太十一線の越中団体内（砺波）に自費で小屋を建て、季節教育所を開いた。農閑期に付近の児童を集め、治郎市の長男が読み書きを教えたという。前年からの団体入植により、相当数の学齢児童がいるのに就学できない状況を見てのことであった。更に翌年の明治 35 年 5 月には、市街地の西 4 条北 1 丁目、真宗大谷派説教所に、私設教育所が開設された。のちに清満寺開基住職となる白井豊信が、説教所を増築し 7.5 坪（3 間×2 間半）の教室で寺子屋式教育を行った。これらの動きは、近くに簡易教育所ができるまで数カ月の短期間であった。

2.3 産業

上川支庁北部の中心都市としての存在である。基幹産業は農業で、コメのほかアスパラガスやカボチャの生産が盛んであり、特にアスパラガスは国内生産高が 1 位となっている。かつては、名寄駅から名寄本線や深名線が分岐し、国鉄城下町としても栄えていた。しかし、国鉄民営化に伴う首都圏への大規模な人員異動や希望退職、両路線の廃止によって地域経済は大きな影響を受けた。このあおりを受け、2002 年には過疎地域の適用を受けている。市内には自衛隊の駐屯地があり、このため第三次産業が第一次・第二次に比べて特出している。

3. 位置・気候

3.1 位置

名寄市は天塩川と名寄川という二つの川に挟まれた位置にあり、東西よりも南北に幅のある形である。ピヤシリ山では毎年ジャンプ大会が開催されている(図 2 参照)

図 2 名寄市全体図



東経 44 度、北緯 142 度の、北海道でもかなり北の方に位置しており、旭川からほぼまっすぐ北に進んだ場所である。上川管内では旭川に次ぐ中核地として栄えている。(図 3 参照)

図 3 名寄市の位置

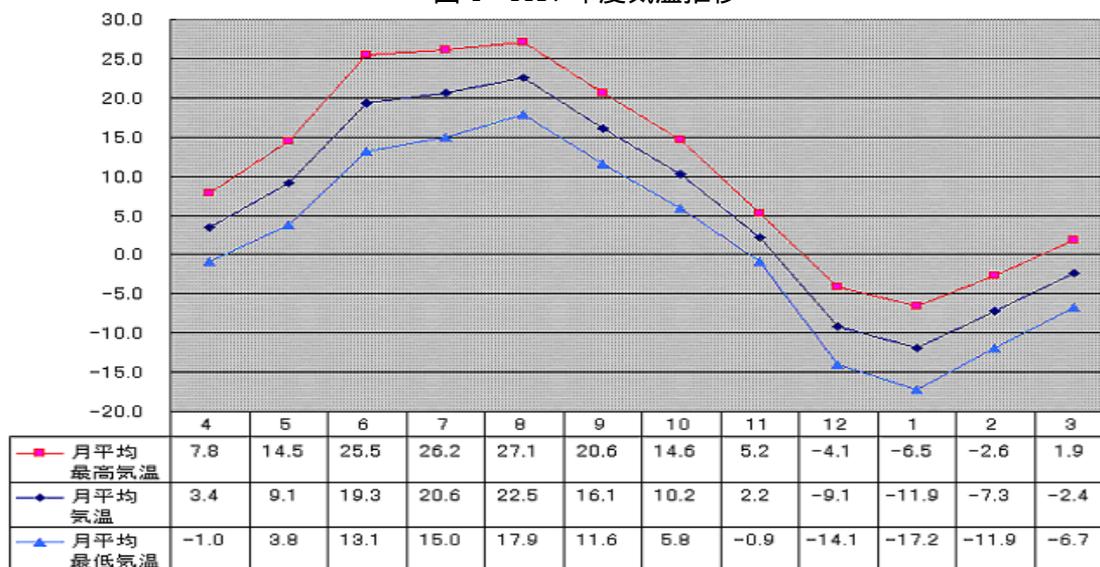


ピンクの部分が名寄市。

出展：北海道庁HP

3.2 気候

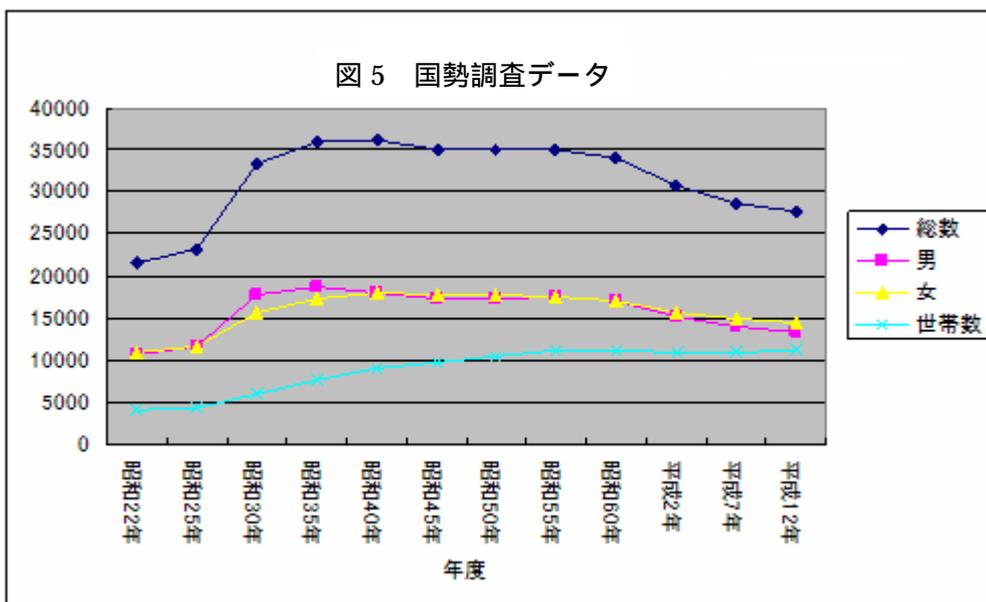
図 4 H17 年度気温推移



月平均気温に着目すると、8月と1月の気温差が約30度とかなりの大きさである。しかし、今私が住んでいる旭川市は名寄市よりも南に位置しているにも限らず、冬場は冷え込み夏との気温差は大きい。これは、名寄市が旭川市とは違い、盆地ではないというような、地形的なものに関してくるのではないだろうか。湿度もあまり高くないようで、夏場は過ごしやすい場所であるといえる。(図 4 参照)

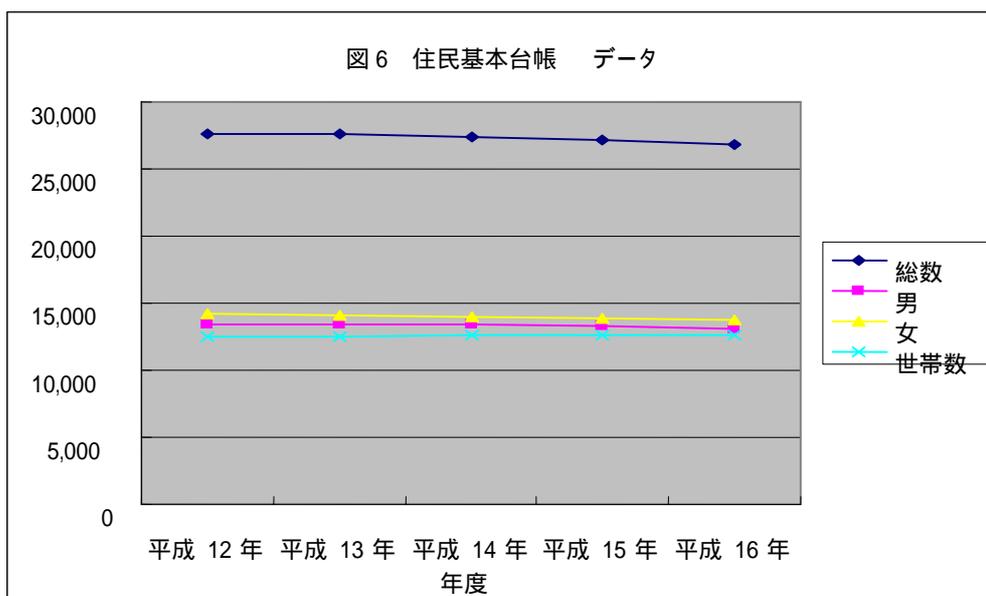
4. 人口・世帯数推移

4.1 国勢調査データ(戦後～平成12年)



昭和30年に一時的に増加したものの、あとは減少の傾向にある。しかし、世帯数は徐々にではあるが増加してきている。なぜ人口は減少傾向にあるにもかかわらず、世帯数は増加傾向にあるのか。一見矛盾しているようなデータであるが、それはそれぞれの家族体形が、核家族化してきているためだと考えることができる。核家族における親が、自分たちの親と同居しないことによって、その時点で世帯数は同居した場合の二倍になっているのである。(図5参照)

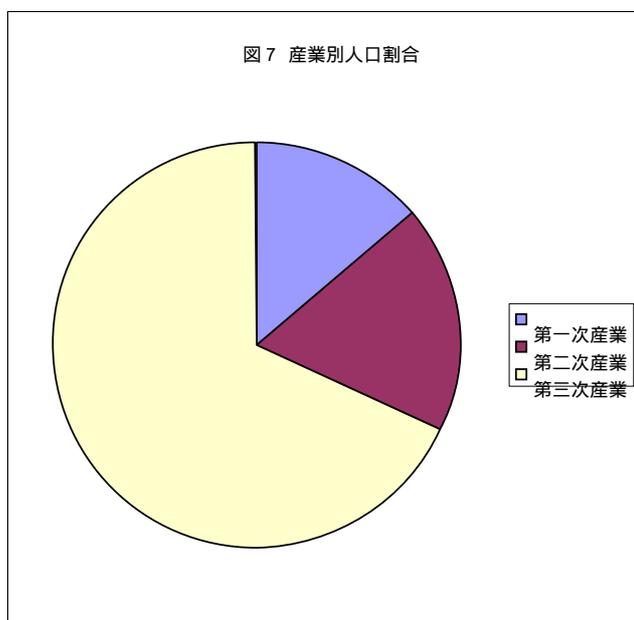
4.2 住民基本台帳(平成12年～平成16年)



総数・男・女・世帯数いずれも大きな変化はなく、安定している。しかし、やはり徐々にではあるが人口が減少し、世帯数が増加してきている。これは、上のグラフについてのコメントで述べたことと同様の理由からの結果であると考えられる。この傾向は二つのデータを総合してみてもわかるように、年々徐々にではあるが増加していくと見られるだろう。(図 6 参照)

5. 産業

5.1 産業別人口



第三次産業が特出していて、第一次・第二次は類似した数値となっている。なぜここまで第三次産業が発展しているのか。それは自衛隊の基地があるためだと考えることができる。同じように自衛隊の基地がある旭川市も第三次産業が盛んな地域である。また、名寄市は周辺の市よりも、発展している街であり、周りからの第三次産業に対する需要があるというのも大きな原因であると言えるだろう。人口も周辺都市よりも多く、このことも関係しているのではないかと考えた。(図 7 参照)

5.2 農業

戦前まで日本の稲作北限であった名寄市は、平成 2 年には水田面積の 72% が転作目標面積になるなど、常に苛烈な生産調整を余儀なくされてきた。転作は飼料作物を中心に、1980 年代頃まではそば、豆類、麦が主だったが、それ以降は野菜の作付けが急速に増えた。昭和 60 年には農業粗生産額のトップを野菜が占めるようになり、今や名寄農業の中核になっている。平成 9 年度の販売額で見ると、グリ - ンアスパラ 5 億 6800 万円、カボチャ 3 億

2000万円、ニンジン1億2300万円のほか、大根、ユリ根、玉ねぎ、長ネギ、白菜などが盛んだ。一方、水稲ではもち米の作付けが伸び、現在ではほぼ全ての水田で作付けされている。冷害に強いなどの点に着目され、生産団地として定着したためだ。

総世帯数は11219世帯であり、内訳は農家数が456世帯、林家数が511世帯、漁業世帯数は不明となっている。農家数・林家数が多いことから、平野または山が多い地域であると推測される。北海道の内地の方であるため、周りに海が面していないので、漁業世帯不明というのは当たり前といえば当たり前なのかもしれない。

5.3 その他

名寄市における総面積は31,462haであり、その内訳は以下のとおりである。可住地面積12,044ha、都市計画区域面積3,450ha、耕地面積5,640ha、林野面積19,418haである。また、農業産出額は532千万円である。事業所数のデータは、製造業事業所数82ヶ所、建設事業所数112ヶ所、卸売・飲食店事業所数618ヶ所、工業事業所数39ヶ所となっている。製造品出荷額は20,161百万円となっている。卸売業商店数は70店で、年間販売額は24,935百万円である。小売業商店数は303店で、年間販売額は38,581百万円となっている。鉱業事業所数はわずか1ヶ所。光熱水道事業所数は5ヶ所、運輸・通信事業所数は45ヶ所という次第である。

6. 観光



ピヤシリスキー場(図8)



なよろ智恵文ひまわり畑東(図9)

主な観光スポット(表 10 参照)

表 10 名寄市観光スポット一覧

みごろ	観光スポット	一口メモ
春	比翼の滝・晨光の滝ナイオロップの滝	雪解けの時期は水流も多く、圧巻。街中の喧騒を離れ、マイナスイオンのシャワーを浴びに行ってみては？
春	ふうれん日進湖畔	周囲 7.5km の日進湖は、300 本のエゾヤマ桜が春風の中で可憐な花びらを咲かせる桜の名所です。
春	田園に広がるシバザクラ	風連瑞生地区の田畑ではあぜ道にシバザクラが植えられ、美しく咲き誇ります。
春～秋	なよる健康の森	四季折々の草花が咲き、小動物が戯れる森で、森林浴しませんか？遊具も充実しており親子で遊べます。
春～秋	ふうれん望湖台自然公園	忠烈布湖を中心とした大自然の中の公園。散策後は、センターハウスの大浴場が疲れを癒します。
夏	なよる智恵文ひまわり畑 東	京ドーム 2 個分の敷地に 70 万本のひまわりが咲き誇ります。まるで自然の中に黄色い絨毯を敷いたような景色。
夏～秋	九度山登山道	頂上まで約 2.5km。天気が良ければ、名寄市街を一望でき、名寄の雄大な自然を満喫できます。
冬	ピヤシリスキー場	雪質日本一のスキー場。運がよければ、サンピラー（太陽柱）現象が見られるかも…

・ピヤシリスキー場

雪質の良さでスキーフリークを魅了するピヤシリスキー場は、FIS 公認の大会会場としても認定されている。又、樹氷・ダイヤモンドダスト・太陽柱（サンピラー）といった冬の神秘的現象にも出会えるスキー場となっている。全国的にも有名な名寄ピヤシリジャンプ大会が開催されている。（図 8 参照）

・なよる智恵文ひまわり畑

太陽の花ひまわり、12ヘクタール（東京ドーム2個分）の広大な敷地内に70万本がギッシリ咲き誇っている壮大な景観である。北の大地に一面の黄色いジュウタンが広がり、名寄市でしか見ることができない風景を作り出しているといえるだろう。ひまわり遊歩道、パノラマ展望台、ひまわり刈り取り体験、じゃがいも掘り体験、ひまわりグッズや特産品

の販売コーナーもあり、自転車の無料貸し出しのサービスも行っている。(図9 参照)

お祭り・イベント一覧(表 11 参照)

・名寄ピヤシリジャンプ大会

前述したように、非常に雪質がよいピヤシリスキー場で毎年開催されているジャンプ大会である。毎年多くの観光客が参加し、盛大な大会となっている。(図 11 参照)

・てっし・名寄まつり

“なよるのおどり”と題して「ピヤシリ音頭」「平成名寄音頭」「北海盆踊」による踊りの輪や、神輿など、盛大なまつりとなっている。今年はサンプラザ中野のライブコンサートも開催される予定。約1ヶ月ほどの長期的なまつりで、花火も打ち上げられる。(図 12 参照)

表 11 名寄市お祭・イベント一覧

開催時期	イベント・祭り
5月上旬	憲法記念ロードレース
5月最終水曜日	名寄市民チャレンジデー
6月第3日曜日	ふうれん白樺まつり
7月下旬	なよるサンピラー国体記念サマージャンプ大会
8月上旬	てっし・名寄まつり
8月上旬～下旬	なよる智恵文ひまわり畑
8月12・13日	風連ふるさとまつり
8月中旬	なよる市民納涼盆踊り大会
8月下旬	なよる産業まつり
9月上旬(3年に1回)	ふうれん鯉まつり
10月下旬～11月上旬	名寄市民文化祭
12月中旬	名寄ピヤシリジャンプ大会
2月上旬	なよる雪質日本一フェスティバル
2月第2日曜日	ふうれん冬まつり



名寄ピヤシリジャンプ大会(図 11)



てっし・名寄まつり(図 12)

関連HP

北海道庁 <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>

名寄市 : http://www.city.nayoro.lg.jp/cgi-bin/odb-get.exe?wit_template=AM040000